

## 感染症予防対策を講じた 災害ボランティアセンターの 運営に向けて

本会では、例年実施している災害ボランティアセンター体制整備支援事業と災害ボランティアコーディネーター講習会についてオンライン会議の活用や参加者数の制限、座席間隔の確保などに留意のうえ開催し、コロナ禍での衛生に配慮した災害ボランティア活動とITを活用した災害ボランティアセンターの運営による被災者支援のあり方を探りました。

また、令和2年7月豪雨による災害発生にともなうブロック派遣で8月26日から31日の6日間、熊本県八代市に本会職員2名を派遣し、感染症拡大防止に留意をしながら八代市災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会  
770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内  
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250  
e-mail: info@e-fukushi.jp https://fukushi-tokushima.or.jp/

## 災害ボランティアセンター体制整備支援事業

市町村社会福祉協議会と共に災害時における災害ボランティアセンターのマニュアル作成や普及・啓発、人材育成等を進めており、本年度は県下2町で新型コロナウイルスの感染症予防の観点からZoomミーティング等を活用して事業を実施しました。

### 南部ブロック(牟岐町)

災害ボランティアセンター体制整備支援事業南部ブロック研修会 ※一部Zoomミーティングを活用

■開催日 令和2年8月1日(土) ■場所 牟岐町海の総合文化センター 2階大ホール

■参加者 南部ブロック市町社協職員他51名(内オンライン参加4名)

■内容 『コロナ禍での災害ボランティアセンター運営を考える』と題し、コロナと共存しながら運営に留意する内容や、ニーズ系専門組織との連携は重要であるとともに日常と災害時は違う為「まず現場を見よ」とアドバイスを頂いた。また、情報共有ツール(kintone)、トランシーバーアプリ、地図アプリを活用した災害ボランティアセンターのオンライン化による三密の回避や円滑な運営に繋げる方法について事例を交えた講義を受け、情報の共有化と可視化を体験した。



ソーシャルディスタンスを確保した受講風景

### 西部ブロック(東みよし町)

災害ボランティアセンター体制整備支援事業西部ブロック合同研修会 ※Zoomミーティングを活用

■開催日 令和2年9月2日(水) ■場所 オンライン研修会(Zoomミーティング)

■参加者 西部ブロック市町社協他80名(東みよし町社協以外はオンラインでの参加)

■内容 長野県での災害ボランティアセンター活動の見える化による住民の方が地域に戻れる活動を心がけた令和元年東日本台風災害への取り組み事例の紹介や、災害ボランティアのオンラインでの仮登録システムの導入による参加者数の事前把握、ボランティア活動保険未加入者に事前加入を促す一斉メールを送信することにより円滑な運営につながる事例の紹介があった。また、モバイル端末でのホームページ閲覧者のため社協のホームページのモバイル対応は普段から行っておくべきとのことであった。



Zoomミーティングを活用したりモートでの受講風景

ボランティア・NPOの情報誌

# ひびき

53号  
Dec. 2020

とくしま県民活動プラザ  
770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地  
沖洲マリンターミナルビル1F  
tel:088-664-8211 fax:088-664-5345  
e-mail:info@plaza-tokushima.com  
http://www.plaza-tokushima.com  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)

マスコミキャラクター プラザ

特集 NPO法人チルドリン徳島  
暮らしと仕事がフィットする  
新しい働き方を!

ひと NPO法人きさわクラブ 平井 滋さん  
続けていけば 何かが起きる

シリーズ この人から  
NPO法人チャレンジサポーターズ 里見 和彦さん  
「新たなチャレンジ!!」

ハートリレー  
No.53 立木さんから高木さんへ

世界のボランティア  
社会全体で支える若者の活躍  
: ボランティア活動へのきっかけ  
マーク・グレアム・フェネリーさん

ひろがる未来・つなぐ活動 那賀川のぎく

## 特定非営利活動法人 チルドリン徳島

子育て中のママたちが自分たちのペースでムリなく仲間や地域・社会との関わりを持ち、子育て時期にもっと「楽しみ・学び・安心して過ごせる場」をつくるための活動をしています。



テレワークセンター 徳島

Chirudrin  
チルドリン  
NPO法人

# 特定非営利活動法人 チルドリン徳島

暮らしと仕事がフィットする新しい働き方を！

いずみ りか  
理事長 泉 理加さん



団体ができたきっかけは、設立当時の理事長だった清瀬さんが、東京で話し相手もなく孤立していた子育て中のママと出会ったことでした。この状況をどうにかしなければと思った清瀬さんが相談した方が私に彼女を紹介してくれたんです。それから子育て中のママ、支援者が集まり、子育て中にママが孤立する状況をどうにかしようと活動をはじめました。

でも、いきなり、ママたちに社会と繋がりをもちましようと言っても伝わりませんよね。そんな時、全国で「ママまつり」というイベントをしている東京のNPO法人チルドリンに出会いました。私たちは「ママまつり」を徳島でもやってみたくらい、チルドリンに協力をお願いし、その他、たくさんの方のご支援を得て、徳島で初めての「ママまつりin徳島」を開催しました。



ママまつりでは、多くのママが笑顔で参加して繋がることができました。と同時に、孤立しているママが予想よりもずっと多いことも分かったんです。私も清瀬さんもコンピューターシステム関係の仕事をしていて、共通の知人から在宅ワーカーの必要な仕事があることを聞いていました。子育て中の方が、社会と繋がりたい、仕事を始めたいというときに、スキルを身につけてもらうことでそうした仕事をしてもらえるのではないかと考え、私たちはICTママの養成講座を始めました。

翌年からは、県からテレワーク推進事業を受託して行うようになりました。テレワークという働き方は、より多様な働き方を実現するための選択肢のひとつで、自分のライフステージに合わせて選択できるので希望される方はたくさんいらっしゃいます。でも、講座終了後の仕事も作っていくことが、私たちの当初からの課題でした。データ入力やサイト構築などの仕事を受けて、講座を終了したICTママに少しずつ仕事をしてもらいながら今までやってきました。

チルドリン徳島は、母親たちの社会活動への参画や自己実現を継続してサポートできるようにと、2014年7月に法人化しました。時代も変わり需要も変わっているのですから、今必要としている方や支援する人が中心となって、どんどんと形を変えながら活動を続けていくような団体になればいいなと思っています。

ビジョンを共有しつつ、自分らしさを大切にしながら、自らの生き方・働き方を選択していく強さとしなやかさを持つ仲間を支えられています。

(取材：篠原・橋本)



特定非営利活動法人チルドリン徳島

理事長 泉 理加

住所：〒770-0053  
徳島市南島田町2丁目25番地  
TEL：080-8637-7367  
URL：https://child-rin-tokushima.com/



きよせ ゆか  
共同創設者 清瀬 由香さん

テレワークを始めようと思ったきっかけは、「働きたいのに働けない」という私の思いを解消したかったのが始まりでした。テレワークの良いところは、時間を自分でコントロールできて、場所を問わずに仕事ができることです。実際、徳島に居ながら、オンラインやテレワークによって、東京の企業の仕事をしているICTママもいます。

ママたちの状況は三者三様です。仕事を通してICTママたちが、自己実現できた、と思ってくれることに喜びを感じています。また、孤立せずに社会と繋がりたい、輝くママが益々増えていってくれたら嬉しいです。今後は働き方とITの専門家として事業支援を行ったり、地域や距離をこえた働き方を続けていき、新たな学び直し、子育てや家事、ボランティア活動など社会課題解決型のマルチワーカー&パラレルキャリアを目指します。



チルドリン徳島のテレワーク講座の一期生で、自営型テレワーカー支援としてチルドリンの事業を担っています。また、NPO法人エランヴィタルの代表としても、阿南市でテレワーク講座を開講し、テレワーク以外の女性の働き方、女性の社会参画などの支援を行っています。

驚くことに、「どのような働き方、生き方がしたいですか？」と聞いたとき、多くのママが、結婚後は子どものことや、どうやって家庭をまわしていくかを優先して、自分の夢、生き方など考えたことがないというのです。

自分自身チルドリンに入った時、何がやりたいのかわからなかったし、答えられませんでしたが、しかし、チルドリンで、いろんな刺激を受けたことで、自分がやりたいことをやってみよう、何歳になっても新しいことにチャレンジできるということに気付かせてもらいました。

子どもが何歳であろうと、自分がどうしたいか、何をやりたいかを考えてほしい。ほんの少し考える時間や考えるきっかけがあれば、自分がやりたいことが見つかるかもしれません。

講座を受けに来てくれた人や、テレワークの相談をしてくれた方に、もっと夢に向かって自分のことを考え、家族や子どものことだけではなく、自分のことをもう少し考える時間を持ってほしいと願っています。どんな状況においても、やりたいことをあきらめない、なりたいたい自分になるという生き方の実現のサポートしていきたいと思っています。



いせ ゆか  
理事 伊勢 由花さん



すみ かおり  
理事 角 香里さん

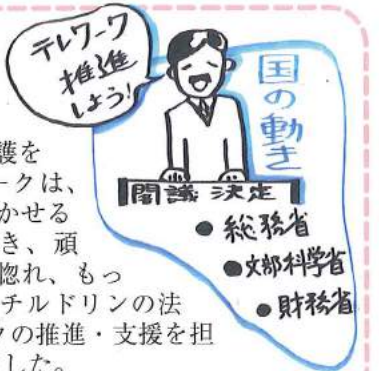
子どもを出産後、再就職が難しかったとき、テレワーク講座を第一期生として受講し、自営型テレワーカーとして仕事をしていました。チルドリンの活動で良かったことは、子育てや介護をしながら仕事を続けられたことです。テレワークは、年齢や性別に関係なく今までの仕事の経験を活かせる上、子育てをしながら自分の時間に仕事ができ、頑張った分の報酬がもらえます。そんな働き方に惚れ、もっと多くのママに伝えたいと思っていたところ、チルドリンの法人化に伴い雇用型テレワーカーとしてテレワークの推進・支援を担うことになりました。



厚生労働大臣より  
輝くテレワーク賞(個人賞)を  
頂きました

現在は、テレワークについて関心を持つ企業に、テレワークの導入を働きかけています。今後もっと私の知識やスキルを高め、社員のために何かを変えたいと思っている企業の方にテレワークの情報を伝えたり、専門知識のある人に繋がることができたらよいと思います。

そして、チルドリンでスタートしたICTママが、テレワークの経験を活かして、テレワーカーとして地元の企業に再就職し、活躍する場面が増えることを願っています。



- 総務省
- 文部科学省
- 財務省



続けていけば

何かが起きる

今回紹介するのは、「地下足袋王子」の愛称で知られる平井 滋さんです。平井さんは、NPO法人「きさわクラブ」やNPO法人「剣山クラブ」等で、那賀町木沢地区を中心とした「南つぎ地域」を盛り上げていくための様々な活動をされています。

平井さんが地域のための活動を始めたきっかけは、2004年夏の木沢地区を中心とした台風による甚大な豪雨災害だったそうです。当時、意気消沈している木沢のために何かできることはないかと考えていた平井さんに、四季美谷温泉から、ツアー実施の声が掛かりました。木沢で生まれ育った平井さんは、林業に携わった経験から、剣山に連なる山々の四季折々の魅力をよく知っていたので、身近にある那賀奥の素晴らしい自然を宣伝し、人を呼び込むことにより、地域の活気を取り戻そうと考えました。

2005年7月に、四季美谷温泉を拠点とした山歩きツアー「木沢の山と花と温泉シリーズ」を始めた当初こそ参加者は少なかったものの、毎週日曜日に開催し、美しい手付かずの自然と「地下足袋王子」の魅力に惹かれ、次第に参加者が増えていきました。その後、ファガスの森に拠点を移し、「山の遠足」と名を改めたイベントは、2020年7月までの15年間で569回開催され、参加者は延べ6,865名にのぼります。

また、平井さんは、シカの食害で土砂がむき出しになり、崩壊寸前の深刻



樫戸丸の樹氷

第3回とくしま花のある風景写真コンテスト最優秀賞 (撮影：平井 滋さん)



特定非営利活動法人きさわクラブ  
ひらい しげる  
代表 平井 滋さん

● 連絡先 TEL: 090-1578-3029  
Mail: jikatabi-oji@ffagus.net  
H P: https://ffagus.net



な状態にある山の保護活動も行っていきます。そして、増えすぎたシカの駆除をすすめようと捕獲したシカを買い上げ、その肉を食材として活用する徳島県内で初めての「シカ肉加工施設」を設立し、ジビエ料理の消費拡大へと繋げました。

このように、地域振興に繋がる活動を企画・実行する平井さんにとっては、これらの活動を通して多くの人との出会いがあり、繋がりができ、一緒にがんばる仲間ができたことが喜びになっている、とおっしゃいました。

将来の夢は、土砂崩れが多く維持管理が大変で町の重荷になっている「剣山スーパー林道」を宝物にすることだそうです。そのため、他にはない、冬場の剣山系の大きな魅力である美しい樹氷を、たくさんの人に見てもらいたい。一年を通しての山の魅力をもっともっと伝えていきたい、と語ってくださいました。

「続けていけば何かが起きる」、「夢のあるところに人は集まる」と心に刻み、平井さんの挑戦は、これからも続きます。

(取材：新居・橋本・大津)

シリーズ この人から

新たなチャレンジ!!

チャレンジサポーターズの理念は、「街づくりは人づくり」を掲げており、主に「SunSunマーケット」「とくしまチャレンジ塾」「ポッポ街プロジェクト」の3つの事業に取り組んでいます。

「ポッポ街プロジェクト むすびcafé」では、徳島駅前ポッポ街商店街に常設カフェを設置し、学生と地域の方をむすぶ活動を今年8月から開始しました。今までの月1回開催するイベントではなく、ほぼ毎日カフェを運営するという大きなチャレンジですが、その大変な分、関わる人の数も多くなり、経験できる機会や社会貢献の数も多くなると思います。

むすびcaféでは、徳島を知っていただこうと、最初のメニューは、おむすび・ジェラート・ドリンクに決めました。可能な限り地元企業と連携し、徳島の食材をメニューに使用し



NPO 法人チャレンジサポーターズ さとみ かずひこ  
理事長 里見 和彦



NPO法人  
チャレンジサポーターズ理事長  
創業アドバイザー  
(徳島県信用保証協会/  
とくしま産業振興機構)

ています。まだまだメニューはそろっていないので、今後も地元企業と連携し、学生たちが考案したメニューを提案していきます。

また、むすびcaféは、学生の憩いの場所としてフリースペースを提供しています。ウォーターサーバーやWi-Fiもあるので、気軽に学生たちが集まってもらえれば嬉しいです。

さらに、PRブースも設置し、大学の活動紹介や徳島の企業・団体を紹介するブースを設置しています。少しでも徳島の情報を伝えようと、PRブースとSNSを活用して情報を発信し、学生と地域をむすびたいと思っています。

【コロナ禍の中、運営は厳しいことが予想されますが、徳島駅前に学生が集まり、交流し、チャレンジできる場所をつくりました。様々な方のご支援をいただきながら運営していきたいと思っています。】

「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業の活動報告

「ゆめバンクとくしま」では、団体、個人からの寄付を助成金として活用して、社会貢献活動に役立っています。今回は、令和2年度の活動(その1)です。



グリーンケア エディ



「大切な人を亡くした方のグリーンサポート～ひとりで悩んでいるあなたへ～」

グリーンケアについて、取り組みを実施している団体の代表者の講演を行った。今回は、Zoomによるオンラインでの配信も同時に行われた。

ビーなつつ (クラウドファンディング支援)

「新型コロナによる子ども達の不安に寄り添う絵本『ねえ、その気持ち話してみよう』出版普及活動」



写真左：クラウドファンディングで製作予定の絵本  
写真上：クラウドファンディングのリターンで支援者に送られるアクリルキーホルダー

一生、いい歯と付き合うために。  
「成人歯科健診を推進しています」

一般社団法人  
徳島県歯科医師会  
会長 森 秀司  
徳島市北田宮 1-8-65 電話 088-631-3977



CLE NUP 吉野川をきれいに!  
参加団体、募集中。



吉野川交流推進会議  
〒770-8570 徳島市方代町1丁目1番地  
未来創生政策課  
TEL 088-621-2743  
FAX 088-621-2758  
E-mail office@yoshinogawa.org  
http://www.yoshinogawa.org/

# ハートリレー

No.53 立木さんから高木さんへ



水際文化村フレンドリー協議会会長  
たかぎ ひろよ  
高木 博代さん

## 徳島文化のしなやかな応援団

「水際文化村フレンドリー協議会会長」「ろくえもん町内会長」などの肩書も持つ高木博代さんは、徳島随一のセレクトショップであるろくえもん通りのブティック「モンド・ジャコモ」のオーナー店長だ。彼女はそのバイタリティーで、徳島文化や中心市街地の応援団として、その魅力発信のために、長きにわたり心と力を注いできた。

ボードウォークでのパラソルショップを展開した賑わいづくり、新町橋東公園に阿波踊り期間中に設置される浮きステージでの有名連による演舞、有名ブランドとのコラボで実現した藍染め商品の開発などなど、関わった事業は多岐にわたり、規模も大きい。

困難な状況にあたり、他の人が無理だとあきらめそうなことに新展開を与えるアイデアやエネルギーは、「なにくそ精神」から生まれるのだと博代さんは教えてくれたが、それを支えるのは、彼女が細やかに、確実に紡いできた、各方面との信頼関係や強い絆だ。

挑戦していくことがさらに必要になるこれから。彼女の活動はますます輝いている。

たつき  
文・立木さとみ



## とくしま県民活動プラザ

- プラザ開館時間 開館時間：10:00～18:00  
【研修室利用時間】  
火曜日～土曜日：10:00～21:00  
日・祝日：10:00～18:00  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、  
年末年始(12/29～翌1/3)



### ●公共交通機関をご利用の場合●

- JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、  
・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
- ・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

### ・・・プラザからのお知らせ・・・

日頃は、とくしま県民活動プラザをご利用いただき、ありがとうございます。  
プラザにおいては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、ご利用の方に、手指消毒やマスク着用などに加え、「とくしまアラート」の発令状況に応じた対応をお願いしています。  
最新の状況については、プラザのホームページでお知らせしていますので、ご確認頂き、ご協力をお願いいたします。

### 編集後記

顔を合わせて言葉を交わす、大声で笑い合う、そんな当たり前のことが、当たり前でなくなった今年。いつもとは違う緊張感のある1年でした。こんな時だからこそ、人の想いが伝わる、居心地の良い場所があったらいいなあと、しみじみ思う毎日です。願わくは、いつでも逢いたい人に会える、行きたい所に行ける、そんな日常が、一日も早く戻りますように。(丸山)

2021年4月入学生願書受付中! (最終締切2021年3月19日@)

**社会福祉学科 通信課程**  
一般養成課程 (1年6ヶ月コース) 短期養成課程 (9ヶ月コース)

**精神保健福祉学科 通信課程**  
一般養成課程 (1年7ヶ月コース) 短期養成課程 (9ヶ月コース)

教育訓練給付制度対象講座  
詳しくはこちらからHPをご覧ください。

TEL.087-823-5566

令和2年度

http://www.fukushihoken.co.jp

# 全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

## ボランティア活動保険



### 保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術		65,000円
		外来の手術		32,500円
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは  
コチラ



(ふくしの保険)  
ホームページ

団体割引 20%適用済/過去の損害率による割増引適用

### <基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

## ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

### 送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土・祝日、12/31~1/3を除きます。)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

## 世界のボランティア

### ボランティア活動へのきっかけ

四国大学 文学部 国際文化学科 教授  
(四国大学学生ボランティア活動支援室スーパーバイザー)

マーク・グレーム・フェネリー  
(Mark Graham Fennelly)

共同生活を行いながら様々なボランティア活動や地域貢献活動に取り組む活動をワークキャンプと言います。イギリスやアメリカではこのようなワークキャンプは様々な団体が実施しており、身近なところで若者がボランティアや地域貢献活動に参加するきっかけとなっています。自分自身もイギリスのナショナル・トラスト(歴史的建築物の保護を目的にしている団体)のワークキャンプを通して、仲間とともに地域活動に取り組む喜びを感じ、次の活動へと展開しました。その後、国際ワークキャンプにも参加し、世界中からのボランティアと関わ

り、国際ボランティアに目覚めました。ワークキャンプを通して様々なことを学びました。人との関わり方、コミュニケーションの大切さ、いろいろな問題と向き合う力(生きる力等)など、教育的効果も多いに感じます。日本では国際ボランティアNGO、NICE(ナイス)が90ヶ国に国際ワークキャンプ事業を実施しています。徳島でも眉山大学でNICEの国際ワークキャンプ活動に取り組んでいます。徳島の若者にももっとワークキャンプのような、地域の方と一緒に地域課題に向き合う活動があればいいと思っています。



## ふくしと私



介護職とは、高齢者に対する尊敬と敬意の念をお返しできる仕事だと思っています。

小さい頃、共働きで忙しい両親に代わって日中はほとんど祖母と過ごしており、私はかなりのおばあちゃん子でした。おからかであつましい祖母との時間

は今でも私の中では宝物となっており、後々の価値観の基盤となったような気がします。

大人になってからは、介護職に従事する母と仕事について話すことが多くなりました。母が「ヘルパーほどやりがいのある仕事はない。」と自信と誇りを持って話す姿をまぶしく感じながら、当時は自分が介護職に就くことになるとは思っておらず、どちらかと言うと趣味の為に仕事をするという感覚でした。しかし子育てがひと段落した頃、仕事を再開するにあたって母の言葉を繰り返し思い出すようになったのです。

施設外観



穂波園でヘルパーとして働くことになり最初に感じたのは、自分の経験をすべて生かせる仕事だという事で



訪問車両

す。利用者さんにとって自宅は住み慣れた城です。そこに他人であるヘルパーが入っていく事に抵抗のある利用者さんや家族は多く、信頼を得るためにもより一層注意を払わなければなりません。自分の力量が試される面白さは私にはのめり込んでいきませんでした。利用者さんと一対一で向き合い、信頼を得られるようになった時の達成感や外では見ることのない一面を見られること

もヘルパーとしての醍醐味です。利用者さんから教えてもらう事もたくさんあります。もちろん良いことばかりではありません。現場仕事は車の移動も多く、夏場は暑いし、冬場は寒い。エアコンがない家だつてあります。しかし、実際に利用者さんと同じ立場に立つ事で見えてくるものがあるのです。

ヘルパーは利用者さんから相談を受ける事も多く、各専門分野へ申し送るため様々な専門知識も必要となってきます。特に医療の知識を身につける事は在宅生活における利用者さんへの強い支えになると感じています。

職員同士の連携で利用者さんの生活をつなぎ、そこでの気づきを家族や多職種連携へと結びつけることで利用者さんやその家族の明日への活力となるような支援を仲間と共に目指していきたいと思っています。

## ひろがる未来・つなぐ活動

### これからもこの活動を続けていきたい

#### 活動内容

ボランティアグループ「那賀川のぎく」は平成10年に発足しました。活動するボランティア数は現在68名。主に那賀町にある小規模共同作業所「あすなろ作業所」内にて、通所者の販売活動や作業活動の支援を行っています。毎週木曜日に開催する「あすなろ木曜日」では、地元の方が持ち寄る野菜やお惣菜などを販売するとともに、併設の「カフェあすなろ」と協力し、栄養バランスを考えたお弁当を一人暮らし高齢者宅への安否確認も兼ねて配達しています。例年4月に開催する「あすなろさくらまつり」の協力や児童生徒へのボランティア体験活動の指導も行っていますが、今年は新型コロナウイルスの影響で9月まで活動を休止していました。

### 那賀川のぎく



あすなろ木曜日



移動販売へ 荷物積み込み中

#### 想い

10月から活動を再開し、あすなろ作業所の通所者やボランティア、地域の方々の笑顔がこの場所に戻ってきました。あすなろ作業所の通所者がいるからボランティアもここで活動でき、ボランティアがいるから通所者もここで活動ができます。どちらかが欠けてもこの場は成り立ちません。そのためには皆が元気で活動できることが第一です。これからも様々な取り組みを進めたいと思っていますが、このような



移動販売中

時代だからこそ、細く長くここが地域活動の拠点としての役割を果たしていけるよう、活動を続けていきたいと思っています。

## ありがとうございます

- 株式会社大塚製薬工場徳島支店様より、県内社会福祉協議会へ経口補水液250箱の御寄贈  
●全国農業協同組合連合会徳島県本部様・JA徳島農政協議会様より児童養護施設7か所へ新米500kg他の御寄贈

地域とお客さまの「ベストパートナー」へ

阿波銀行  
http://www.awabank.co.jp/

ともに未来へ  
~ to the future with ... ~

徳島大正銀行  
トモホールディングス

# テーマ募金にご支援ご協力をお願いします。

## 徳島県共同募金会

徳島県共同募金会では、令和3年1月から3月末にかけて新たな手法による募金活動として、次の3団体がそれぞれ主体的に募金を呼びかける事業（テーマ募金）に取り組んでいます。このテーマ募金は、地域の様々な社会課題の解決に向けて、NPO法人等の活動に必要な資金を募集するものです。皆様からの温かいご支援・ご協力をよろしくお願いします。



## テーマ募金の内容を紹介します。

知的障がいがあるひとたちとスポーツでつながる

認定NPO法人

スペシャルオリンピックス日本・徳島

スペシャルオリンピックスの使命は、知的障がいのある人たちに継続的にスポーツトレーニングと競技の場所を提供し、健康を推進し、地域の人々と友情を分かち合う機会を継続的に提供することです。

徳島県内においてこの取り組みを拡大するために、ご支援をお願いします。



●募金目標額  
30万円

障がい者のメッセージを伝える「やまびこの詩」

NPO法人徳島県ボランティア協議会

「やまびこの詩」は、心身に障がいを持つ人たちから詩を募集し、それらを朗読や歌で発表しています。

障がいを持つ人が、胸の奥にしまいこんでいる願いや悩み、愛する人への言葉を、メッセージとして広く伝え、共に生きる社会の実現をめざして活動しています。若い世代も積極的に取り組んでいますので、応援をお願いします。



●募金目標額  
15万円

生活困窮者に対する生活用品貸与（給付）事業  
とくしま・くらしサポートセンター  
（県社会福祉協議会）

生活困窮者の就職活動等に向けた一歩を応援しています。この事業で取り扱う生活用品とは、スーツや自転車など、就職活動や就労継続のために必要な物のほか、炊飯器や電子レンジなど、自炊等に必要の物品のことで。皆様からも応援よろしくお願いします。

●募金目標額  
10万円



つながりをたやさない  
社会づくり  
～あなたは一人じゃない～



# 災害ボランティアコーディネーター講習会

新型コロナウイルスの感染拡大のため、従来3日間の日程で実施していた「災害ボランティアコーディネーター養成研修会」の日程を1日に短縮、また内容を変更し災害時における被災者ニーズの調整を行うコーディネーターの養成を目的に「災害ボランティアコーディネーター講習会」として開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しグループワークを行わず座学を主とした研修を実施しました。

■開催日 令和2年9月5日(土) ※ソーシャルディスタンスを確保し実施

■場所 県立防災センター(消防学校講堂)

■参加者 17名(修了者17名)

■内容 発災直後の災害ボランティアセンターでは本部での判断より現場で迅速な判断を行うことが重要であるとのこと、また、災害ボランティア活動は1つのグループを2班に分け15分交代で作業を行うことで作業効率が上がるとのことであった。なお、避難所での車中泊避難者は仮にコロナ禍がなかったとしても増加傾向であり、エコノミークラス症候群に注意した運用が不可欠とのことであった。



講義風景



座席の間隔を空けソーシャルディスタンスの確保に留意した受講風景



# 熊本県八代市災害ボランティアセンター支援活動

九州ブロックからの要請を受け、四国ブロックの県社協から、(愛媛県、香川県の次に)当会の派遣職員2名が8月26日(水)から6日間運営支援に入りました。

熊本県八代市坂本町の被害

7月の豪雨災害により球磨川が氾濫し、八代市では坂本町を中心に水害の被害を受けました。7月7日から八代市社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを開設し、家の中の泥だしや家財の搬出、室内清掃などを中心に被災者支援を行いました。

災害ボランティアセンター

コロナ禍での災害ボラセンの運営であり、受付時もマスクを着用して消毒液も配置するなどの対策をとり、被災者宅ではマスクを着用しての支援のため、十分休憩と水分をとりながら活動を行う旨の説明を、ボランティアに行いました。

災害ボランティアセンターから復興ボランティアセンターへ

8月中旬になると、新規ニーズの増加が落ち着きを見せ始めたため、今後のセンターの方針や方向性について協議を行い、復興ボランティアセンターに衣替えをして運営できないか検討が行われました。

現地調査の結果を踏まえて、地域の住民代表の区長や民生委員児童委員、行政や関係者と合意形成を行い、9月中旬には災害ボランティアセンターを閉鎖し、9月の下旬から復興ボランティアセンターとして、週末に稼働するセンターが被災地域の近隣に設置されました。

